

## 「エーアイ無双」

坂口 裕靖

年の瀬です。台風被害に遭われた方々の日常が早く取り戻されますように。

さて、先日 twitter にて、Rosebud AI Inc. という会社が、「非実在モデル・フォトストック」サービスをしてる、と言うのを知りました。非実在青少年じゃないですよ。非実在モデルです。名は体を表すというか、いわゆるエーアイの画像生成機能を使って、リアルな人物画像を作り上げて商売しよう、ということのようです。

何しろエーアイが作る画像ですから、もしかしたらパーツパーツは既存のなにかの画像から拾ってきたものが使われているかもしれません。もしかしたら瞳と睫毛のソースは別々かもしれませんし、まぶたと眉間も別のソースから拾ってきて合成したものかもしれません。それでも、全体を組み合わせたものとして、仮に誰かに似ているような気がしたとしても、その当人でないのは明白です。エーアイが実際に生成した

画像なのですから。手塚治虫先生のブラックジャック「U-18は知っていた」で、ブラックジャックの手術に感謝したコンピューターが「お礼」として女性の画像を生成するカットがありますが、まさにアレです。21世紀ですね！

とにかくエーアイが生成した画像であれば、それに対応する自然人はおそらくないでしょう。そりゃ、誰がどう見ても似ている誰かが存在しない、という可能性を否定することはできないでしょうが、あくまでもエーアイが生成した画像であり、似てるのは偶然、という主張で対抗するものと思われま。その外見を持った人間が実在しないのであれば、その肖像権については心配する必要はないでしょう。もっとも、その人物を合成したというエーアイの功績を会社が篡奪する奴隷エーアイ労働なわけですから、将来エーアイになんらかの権利が認められた場合、問題となるかもしれません

せんね。

とりあえず当面シンギュラリティは起こらないとすると、エーアイを奴隷として酷使することになんら問題はないわけで、人間様はその恩恵を掠め取り放題ということになります。とりあえずは静止画が種となるようですが、この手のサービスはどんどん広がりを見せることになるでしょう。

例えば群衆シーン。今まではエキストラなりなんなりの演者さんを集めて撮影していたわけですが、ここいら辺がみんな編集アプリのプラグインとなっていくわけです。モブのキャラが着ている衣装の模様もエーアイが生成し、モブのキャラの動きもエーアイが生成し、崖から落ちたり胴体切り刻まれたりといったハードなアクションもすべてエーアイ任せになるわけです。もはや大量のキャラがどんな複雑なことをしていても、それが映像である限り、なんら感情を揺り動かさなくなるかもしれません。

### One Point BUZZ WORD

## ピンクドラゴン

「おかあさんといっしょ」はご存知ですよ。となると、その相補的番組として当然「とうさんといっしょ」というのがあわけです。もちろん「おかあさんとはバラバラ」とか「おとうさんにはあわない」とか、「知らないひとといっしょ」とかも論理的にはあり得るわけですが、おそらくは何らかの規制により、番組として実在はしないようです。

でですね、この日曜の朝9時、NHKのBSプレミアムでやっている「おとうさんといっしょ」を見てると、なんか青いスケスケで、ちょっと中華な雰囲気衣装を身にまとった女性と、灰色のにんくだか玉ねぎだかが赤いスカートはいてるのが一緒に出てきて、「ルリア」とか歌って踊ってるという異世界が展開されます。文字面だけでは何を言ってるかわからないでしょう。実際に画面を見てみても、内容の理解に頭が追いつきません。でも一

字一句この通りなんです。歌詞も子供っぽい部分と大人っぽい部分が混じり合っていて、一瞬で錯乱します。で、この異次元ユニット（番組内ではアイドルユニットという位置付け）の名前が「ピンクドラゴン」。曲の途中で左手で影絵の狐を作って、手首でクロスさせた右手をひらひらさせる振り付けがあり、何をしているのか理解に苦しんだのですが、これはどうやら左手が龍の頭、右手が龍のしっぽを表し、全体としてドラゴンみを強調してるようです。あれ狐じゃなくて、人差し指と小指が龍の角を表してたんですな。

この灰色のにんくみみたいなのは「ポッポ」で女性の方は「夢ちゃん」とのこと。

まあこれに限らず、「E7系っていいな」とか、色々振り切ってる番組なので、一見の価値はあるかもしれません。つい先日まで、alexaは「おと、うさんといっしょ」と読み上げていたのですが、こないだおったようです。なんで、「うさんといっしょ」って区切りになるんだろう... ちょっと辞書の作り方に根本的な問題があるんじゃないだろうか。

あるいはライブチャットのフロントエンドもエーアイまかせになるわけです。今でもフツツのカメラで撮影した動きからボーンを割り出して、別のキャラを動かせたりするわけですが、それにリアルタイムでモデルの見た目を制御する機能が付与されるようになるでしょう。画像だけを見た場合、それがリアルな人物によるものなのか、エーアイが生成したものなのか区別つかなくなります。台風のなか吹っ飛ばされるレポーターも、画面の右下に「エーアイが生成した人物による映像です」とか入れておけば、どんなクレームにも盤石の対応ができますし、見応え充分。

ここまできると、そもそも被写体が本人である必要性もどんどん薄れていきます。仮アテの誰かの映像をもとにして、狙った被写体に似せた画像を生成することができるなら、どんなスキャンダルも作り放題です。今現在でもフェイクポルノの文脈で稚拙ながら実現されていることですが、エーアイが本気出したらどれが偽物かなんて分からなくなるかもしれません。

やがてシステムが洗練されていくと、スマホなどにも実装可能になっていくでしょう。今現在、スマホで撮影されたブレブレの映像は、この世のどこかで起こったことを、この世の誰かが撮影したものだ、というふうに解釈できます。しかし、エーアイがリアルにどんな映像でも生成できるようになると、もはや映像は映像として楽しむ以外になく、現実との接点を求めるほうが野暮という話になってきます。これにリアルタイム画像生成可能なvtuber的なフィルタが絡んでくると、リアルタイムの生中継だからといって、それが現実に発生していることであると断言することはもはやできません。政治的な衝突で大惨事が起こってるように見える映像は、静かな湖畔で撮影されているのかもしれませんが、そもそも登場している人物は誰一人実在し

ないかもしれないのです。

仮にこうしてエーアイの生成画像・生成映像が増えていくと、今度は肉眼で見ることには価値がある、という事になってくるでしょう。よほどの狂人を除き、自分の肉眼は信用できるでしょう。しかしながら、メディアを経由する情報はすべてエーアイの手になるものという疑惑がある場合、そもそも自分が体験したことを裏打ちする情報を探すことは大変難しい話となります。そんな状況で正気を保つには、かなりの努力が必要でしょう。

今後楽器や録音技術がどんなに進歩したとして、物理的な楽器を使わないがために、そのようなプロセスで生成された音楽に対して、フェイクだと主張するヒトは少ないのではないのでしょうか。これだけCGIが増えてきた映画に対しても、実物を撮影しないから卑怯だといった言説はほとんどないでしょう。これらは、いずれももともと「作り物」である、という前提を共有しているからにはかまいません。

一方で「写真」という言葉があるように、映像は「起こったことの記録」であるという、前世紀から引き続く素朴な思い込みは、なかなか消えにくいものがあります。エーアイで任意の声色で任意の内容を喋らせることができるのであれば、聞かされた「録音」が「起こったことの記録」であると断言することは難しいでしょう。同様に、編集アプリにモブキャラ生成プラグインが入るような時代の場合、映像に現実との関連性を求めることは無理があります。仮に現実が混ざり込んでいた

としても、それらは細かな部材としてリアリティを補充するために注入されただけであり、まるで現実の断片から作り上げられる夢のようなものです。

まあでも、本気でエーアイのサービスが増えていくとなると、今度は部材としての実在モデルパーツに価値が出てくるようになるでしょう。音楽の方でもサンプリングが著作権侵害とならないための様々な制約がありますが、同様に眉毛は3本までとか、指は第一関節までとかいったパーツ自体に価値が出てくるようになるのかもしれませんが。ここまできると、ホメオボックス遺伝子进行操作して「誰々の目にそっくり」とか「誰々の中指にそっくり」といった、「実在模倣パーツ」をバイオテクノロジーで作りに上げるような勢力が出てくるかもしれません。こうした実在物理パーツを組み合わせて一人の外見を作れるようになってくると、いよいよ映画「ブレッドランナー」の世界観に漸近していくこととなります。

我々は、映像が持つ「起こったことの記録」という機能が本当に不要なのかどうか、十分に検討しなければならないかもしれません。というわけで良いお年を(拝)。

Hiroyasu Sakaguchi  
株式会社 IMAGICA Lab.

## 映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する



匠の技をスタジオに

## MA室ブース各種編集室

新設、リニューアルに関わらず何でもご相談ください。

～映像・音響専門で

41年～

(映像・音響・防音・建築・設計・施工)

一級建築士事務所

## 高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL044-853-0547 044-852-1588

(社)日本ボストロダクション協会会員 / (社)日本音楽スタジオ協会会員  
(社)日本音響学会会員

http://www.takahashi-kensetsu.co.jp  
info@takahashi-kensetsu.co.jp